

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791800093		
法人名	医療法人小池外科		
事業所名	グループホーム西本町		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市西区阿波座1-2-12		
自己評価作成日	令和6年1月15日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>感染症対策、緊急時の対応、又外出がまだ困難なため入所者様にはレクなど行事を通して季節を感じて頂けるよう努めています。</p>

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

<p>https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791800093-00&ServiceCd=320</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)
訪問調査日	令和6年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>医療法人を母体として開設9年を迎えます。大阪メトロ本町出入口に近く交通の便の良い都心にある4階建てのホームで、2階・3階・4階に分かれて3ユニット27名の利用者が生活しています。ホームの周辺はオフィス街で多くの人や車などが行き交っていますが、近くには神社や公園があり散歩を楽しむ環境にも恵まれています。コンビニ等も近隣にあり買い物に出かけることもあります。事業所はバックアップ施設の介護老人保健施設、協力医療機関、協力歯科に加え訪問看護等の事業所と連携を図り、健康管理に努めています。食事は3食とも各階のキッチンでスタッフが調理しています。リビングに面したキッチンから響く食事準備の音と、漂う匂いが食欲に繋がります。管理者をはじめ職員みんなが、利用者の笑顔と明るい雰囲気づくりを大切に、暮らしを支えるグループホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が作られていること、理念の大切さが浸透できていない。	「私たちはいつも心がけています『笑顔がいっぱいのホーム』『主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム』地域の方と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます」。理念は1階入り口と各階のユニットに事業所に掲示し、職員や外来者がいつでも見れるようにしています。理念を基に一人ひとりの笑顔が引き出せるよう努めています。	事業所の理念に沿って、各階ユニットで年度ごとに、共有実践しやすい目標を立てられてはいかがでしょうか。家族や外来者の理解を深め、協力が得やすくなるよう『目標』はエレベーター内やホールに掲示されるのもよいでしょう。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全くない。(コロナ等の為)	コロナ禍以前は老人会主催のふれあい喫茶や祭りにも参加していました。町内会にも加入しています。町会長は運営推進会議に委員として参加し、会議以外でも時々ホームを訪れます。今後コロナの終息状況をみながら、近隣への散歩の機会を増やし、これまであった地域交流の再開につなげていきます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人一人個人的に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議などし意見交換をしサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月に1回開催し、議事録に記載しています。参加メンバーは利用者、利用者家族、町会長、地域包括支援センター職員、ホーム管理者、職員で構成しています。コロナ禍の中ではメンバーが揃わない時が多くありました。家族には「お知らせ」で開催日を伝え参加を呼びかけています。会議では、活動状況・行事内容や予定、また内部研修実施状況なども報告し、意見交換をしています。参加した家族からは感謝の言葉が寄せられます。	幅のある委員会構成が望まれます。町会長が多忙な時は代理出席者を選任してもらったり、家族へは面会時や電話等も利用して参加を呼び掛けてはいかがでしょうか。また議案に、毎月の事故やヒヤリハットの報告も入れることにより、ホームへの理解がより深まるのではないのでしょうか。事故報告は職員がしっかりと事故対策を検討している報告でもあります。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者と、入所者様に何かあれば都度相談している。	区の担当者とは、いつでも相談して協力を求められる関係です。治療が必要な事故が起こった際には必ず報告しています。また生活支援が必要な独居住民の相談なども受け、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム全体が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	多くの人や車両が行き交う道路に面した1階入り口のドアは電子ロックで施錠しています。また各ユニットの入り口はテンキーロックがしており、利用者の移動や外出などは、職員見守りと付き添いにて対応しています。外部との接触がない分、違うフロアとの交流を行う事で気分転換を図っています。身体拘束廃止委員会を3カ月に1回開催するほか、管理者は職員の利用者への対応などで問題があれば適時面談をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コミュニケーションを取り合い虐待を見逃していないか注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や面会の際、家族等の疑問点や不安などないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を聞き入れ対応している。	コロナ禍の影響が続き、面会は玄関にて対応しています。また電話で「元気にしていますか」「必要な物はありますか」などの問い合わせがあり、できる限り丁寧に答えています。家族の意見や要望は面会時や電話の際に聞くようにしています。曾孫の成人式に行きたいという要望が叶い、出席できた利用者もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションを取り合い反映に努めている。	ユニット会議は1カ月に1回、各フロアごとに開催し、職員の意見や要望を聞いています。業務やケアについては、ミーティングノートや会議録に記載し、参加できなかった職員にはノートを回覧、捺印を徹底し、全員が共有できるようにしています。働きやすい環境を整え、業務負担が偏らないよう配慮し、職員の定着へと繋げています。ストレスチェックを兼ねてフロアリーダーが随時一人ひとりの言葉に耳を傾けるようにしています。職員は1日も早く散歩や外出の提案ができるようにと願っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの為外部との交流を制限している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の出来る事を出来る範囲で努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話にて相談等話された時に御家族様様の要望も傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度本人と家族等が必要としている支援を見極めサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各フロアにて本人様ともに暮らしやすい環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と同じ目線で本人様を支えていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の話をしたり昔の音楽を聴いている。	コロナ禍以前は友人や知人の面会があったり、馴染みの美容院や酒屋等に出かけたりしていました。現在は、まだ買い物の要望にも職員が代行するなどしています。職員はこれまでの馴染みの関係を少しでも継続することが大切なことと理解し、今後の支援に繋がっていきます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が意識的入居者様同士が誰とでも仲良く関わっていける関係性を深める支援・行動がとれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度会議など話し合っている。	計画作成担当者は、入居時に家族や利用者一人ひとりの意向や思いの把握に努めています。夜勤時やトイレへ誘導時なども、利用者の思いを傾聴する大切な機会になっています。夜勤者から日勤者への申し送りノートには情報を細かく記載し、共有しています。管理者・職員は毎月のミーティングで日常記録ファイルの内容や、サービス実施状況、支援経過等の検討を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様が好きな事、嫌いな事等傾聴している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録や申し送りなどして現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランなどをもとに日々記入して見直しなどしている。	介護計画の見直しは6カ月に1回、カンファレンスは3カ月毎に実施しています。必要時には、その都度見直しをしています。モニタリングは毎月実施しています。計画作成担当者が常に大切に心掛けている事は、個性を活かし精神的に穏かに安心して生活できる支援。日々のサービス内容についても「出来ているか、出来ていないか」を細やかにチェックし、モニタリングの有用性を高めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様の行事など気づいた事があったら報告し支援へ繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズや変更など会議で話し合い実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクリエーション等、入居者様が楽しむ事の出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の医師の往診や看護師訪問で健康管理を行っているため結果や相談事等御家族様へ伝えている。	月2回、母体病院の医師の往診や看護師の訪問で健康管理を行っています。利用者2名は入居前からのかかりつけ医を受診しています。家族等の同行が原則ですが、無理な場合は職員が通院介助を行い、受診結果は電話やメールで家族等に伝えています。週1回の訪問歯科もあります。夜間や緊急時の対応は、協力医療機関との連携により、適切な医療が受けられる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に異変があった時等医療連携小池外科担当ナースへ報告し指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、都度担当の相談員と話し合い、治療方針等聞き取りを行いカンファレンスにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いケアを見直し少し異変等があったら担当ナースや御家族様、後見人様に伝える。	入居時、重度化や終末期の対応を説明し、利用者・家族等の意向を確認して「意向確認書」を作成しています。利用者の状態変化に伴い家族等の意向を再度確認しながらホームのできる限りの支援を行っています。常時、医療的処置が必要になった場合は、医師・看護師・職員・家族等が話し合い医療機関に繋がっています。今後の看取りケアの受入状況を鑑み、看護師による外部研修を受け学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	何かあった場合管理者や担当ナースに指示をもらい連携をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各階に災害時の対応マニュアルを置いています。	災害対策マニュアルや緊急連絡網を作成しています。年2回の避難訓練は、消防署の指導のもと「慌てず避難誘導できること」を心掛けて職員参加で実施しています。備蓄品は1・2階倉庫に保管し、備蓄一覧表を作成して各フロアリーダーが点検、管理しています。簡易版BCPシートはホームで作成しています。	職員参加の訓練が定期的に行われていますが、今後は利用者参加の訓練も必要になってきます。「利用者が避難集合できる場所の確保と集合方法、集合場所で救助を待つこと」に重点をおいた避難計画も検討されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けやプライバシーにおいては一人一人個別に対応している。	定期的な内部研修(接遇、認知症ケア、人権擁護等)を実施しています。日々のケアにおいては言葉使いや声かけに配慮し、利用者への「敬語」に心掛けています。排泄や入浴時はプライバシーを損ねない言葉かけや対応に配慮しています。不適切な言葉使いや対応に対しては、リーダーを中心に職員間で話し合える風通しの良い職場環境にあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に何がしたい、どうしたいなど聞いて共にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望のある入居者様には買い物に行ったり希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様で選べる人は選んでいただいている。訪問美容に関しても同じようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月の献立は職員が全て考えており、食したいと希望する献立を取り入れていない。一部の入居者様には出来る範囲でお手伝いして頂いている。	食事は3食とも職員が調理し、利用者の嗜好に配慮したメニューを工夫しています。職員も距離を置いて同じ食卓を囲み、同じ物を食べることを大切にしています。誕生会は利用者の希望メニューで祝い「ピザ、ハンバーガー、フライドチキン等」は人気です。ノンアルコールビールも「楽しみの一つ」です。利用者はマスク着用で片付けや食器拭き等を進んで行っています。1日の献立表は大きな字で分かり易く、利用者の見える場所に置いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や排泄表にて水分量みてしっかり摂れているるか適宜スタッフが個々に見るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに利用者一人一人の排泄パターンに合わせ声掛けをし見守り、一部介助にて出来ることはして頂いている。	職員は個々の排泄パターンを把握し、声かけやサインを見逃さないように心掛け、トイレでの排泄を支援しています。リーダーの提案で、全職員が寝たきり状態で入居した利用者の支援に根気強く取り組み、トイレ排泄が可能になった事例があります。現在、自信を取り戻し、車椅子自走の生活を送っています。夜間は安全面に留意してポータブルトイレを使用している利用者もいます。各フロアのトイレはそれぞれ3ヶ所あり、車椅子対応のトイレも備えています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操や排泄指示にてコントロール話し合っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表にそって職員間で廻している。	週3回の入浴日は決まっていますが、状況に応じて柔軟に対応し、同性介助も可能です。お湯はその都度入れ替え、利用者は入浴剤のユズ、森林等の香りで入浴を楽しんでいます。1対1の入浴は「そこでしか話せない場」として大切にしています。利用者が「〇〇さんは・・・」と本音トークとなったエピソードもあります。入浴後は化粧水やクリームで肌を整えている利用者もあります。浴槽内や洗い場に滑り止めマットを置き、安全面に留意しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝の時間を作って個々に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を見て確認し変更等あれば申し送りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの為各フロアにあまり行けないため音楽等かけたりし気分転換等している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為控えている。	コロナ禍の外出制限時はラジオ体操、ゲーム、カラオケ等で気分転換を図りました。また、職員間の情報交換のもと、各フロアへの利用者訪問を行っています。感染対策の緩和に伴い、日課の散歩(近隣の公園、神社)やコンビニの買物外出等の再開も準備しています。家族等との外出や外食等も予定しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらで管理し出納帳を作っている。希望されたらお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望された場合は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り紙などで季節感がある物を飾るなどし四季が分かるように支援している。	エレベーター前の共有スペースは絵本原画や装飾品を設え、座椅子で一息つける空間になっています。リビング兼食堂は明るく掃除が行き届き、壁面の季節の折り紙作品や行事写真が日々の暮らしぶりを伝えています。大型テレビもあり、ソファでゆったりと寛げる生活環境にあります。安心・安全な生活を送れるように感染予防の消毒も行い、転倒防止対策(床や利用者の靴滑り)に留意しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を考えたり、本人様が過ごしやすいように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が安心して生活できるよう努めている。	居室はベット、タンス、エアコンが備えてありベットの高さは個々に応じて調整しています。それぞれの利用者は馴染みのある家具、仏壇、テレビや家族写真等を持ち込み、居心地良い部屋になっています。管理者は毎朝の個々のルーティンを尊重することや、良好な職場環境の維持に努めることを通しても、利用者が安心して生活できるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは活かし、分からない、出来ないことは各フロア介助等工夫している。		